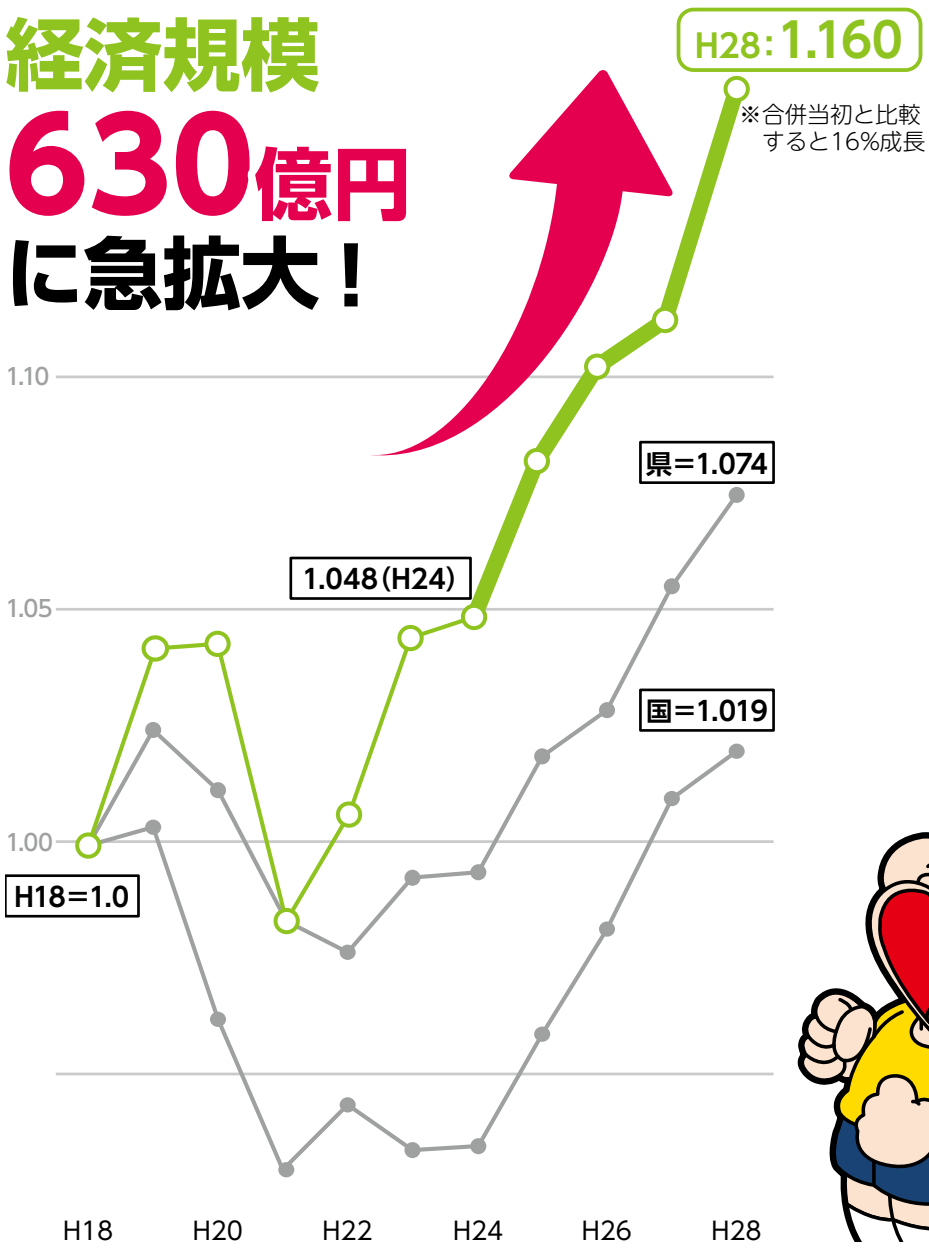
躍進する都城！
都城の元気を徹底紹介！

本市は、本市が持つ「３つの宝」である「農林畜産業」「地の利」「次世代を担う子どもたち」をより一層輝かせるとともに、子ども・子育て支援の拡充や市民の健康増進などの重要施策、市民サービスの更なる向上、「肉と焼酎のふるさと・都城」の対外的な PR を推進する事業に取り組み、大きく発展してきています。今月から３回シリーズで、これらの取り組みと、その成果について紹介します。　◎問い合わせ　秘書広報課　☎ 23-3174

本市の経済成長率＝11.2％
(H24～H28)

経済規模 630億円 に急拡大！



県内トップクラスの成長率

本市の平成24年度～28年度（最新）の経済成長率は、11・2パーセントとなっていて、県内トップクラスです。

また、経済規模は、平成24年度の5、940億円から、平成28年度は6、570億円にまで急拡大。630億円の増加となっています。

バランスのとれた自治体経営

財政状況について見ると、市の自主財源比率は、平成30年度決算ベースで50・4パーセント。県内トップとなっています。

一方、市の借金である市債残高の実質負担額は、合併直後の平成17年度末の404億円から、令和2年度末には190億円まで縮減を見込んでいて、着実な財政健全化を進めながら、「バランスのとれた自治体経営」を行っています。

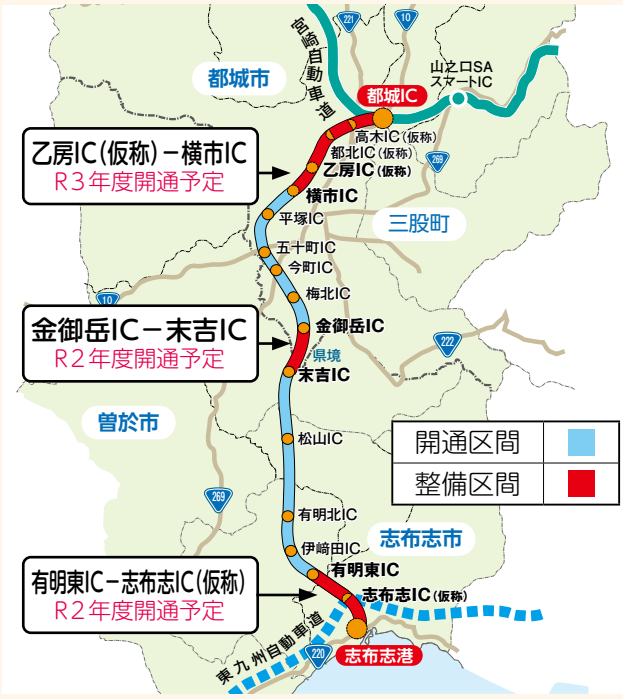
アクセス性に富んだ南九州圏域の物流拠点
「地の利」拡大の取り組み

市では、本市の「地の利」を生かし、都城志布志道路や山之口スマートIC、基幹道路の整備などとともに、企業立地による新たな雇用の創出や、地域医療の拠点整備など、南九州のリーディングシティとして、さらなる発展のための事業に取り組んでいます。

都城志布志道路　事業進捗が急加速！

令和３年度末　8割開通予定

乙房 IC（仮称）～志布志 IC（仮称）までが開通予定



都城の「地の利」

本市は、宮崎市と鹿児島市の間に位置し、陸・海・空からのアクセス性に富んだ南九州圏域の「物流拠点都市」です。

九州縦貫自動車道や国道、主要地方道が整備され、宮崎空港と鹿児島空港へは、車で約1時間という好アクセスを誇ります。また、圏域には、国際バルク戦略港湾である志布志港があります。

「地の利」をさらに高める、都城志布志道路の役割

都城志布志道路は、本市を起点に鹿児島県曽於市を経由し志布志市に至る、総延長約44キロの自動車専用道路です。

本道路は、九州縦貫自動車道宮崎線や、東九州自動車道と接続することで広域交流ネットワークを形成。本市を中心とする南九州圏域の発展を担っています。

また、「防災の道」「経済の道」「医療の道」としての機能強化に大きく資すると期待されていて、圏域の「命」と「暮らし」を守る重要な役割を有しています。

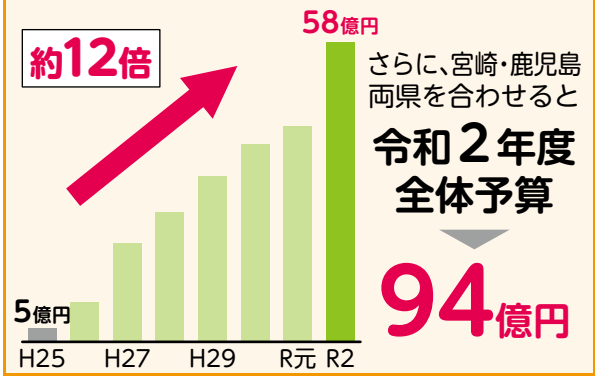
令和3年度までに8割開通予定

市では、早期全線開通に向けて、都城志布志道路整備・活用促進大会の開催や、国や県への要望活動など、曽於市・志布志市や都城志布志道路早期完成促進民間協議会などとともに、「官民一体となった取り組み」を積極的に進めています。

これらの取り組みの結果、令和2年度の国直轄予算は、平成25年度と比べ約12倍の58億円と過去最高額。また、国と宮崎県・鹿児島県全体の予算総額は94億円となりました。

以上の結果、令和3年度までに全体の8割が開通する予定です。

都城志布志道路　国直轄予算が大幅に増加！



さまざまな効果を生んだ山之口スマートＩＣ

スマートＩＣとは、サービスエリアを利用して高速道路への乗り入れができる、ＥＴＣ搭載車専用のＩＣです。山之口スマートＩＣは、車種の制限がなく、宮崎、熊本・鹿児島両方面ともに24時間通行できます。

平成28年９月に開通し、日常生活の利便性が向上。このほか、物流の高速化や、大規模災害時における交通アクセスの確保、さらには、宮崎大学医学部附属病院への搬送時間の短縮など、さまざまな効果が生まれています。

基幹道路も着実に整備

「地の利」をさらに拡大させる取り組みとして、市は、中心市街地と地域生活圏をつなぐ環状道路や、幹線道路など基幹道路の整備についても着実に進めています。

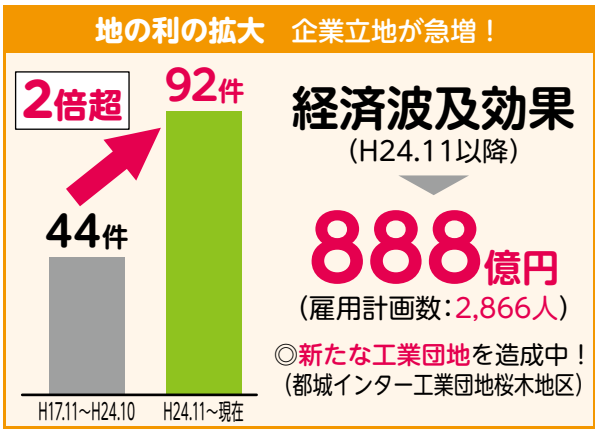
【主な基幹道路など】

- 鷹尾上長飯通線（平成31年３月開通）
- 甲斐元通線の歌舞伎橋（令和元年11月開通）
- 街区三股線（令和２年３月開通）
- 鷹尾都原線（整備中）

「地の利」を生かした企業立地

都城志布志道路の整備促進や、山之口スマートＩＣの開通、基幹道路の整備と併せて、積極的な誘致活動などにより、企業立地件数が急速に伸びています。特に、平成24年11月以降から令和２年５月末までの期間、企業立地総件数は92件となり、経済波及効果は８８８億円、立地企業が見込む雇用計画数は２、８６６人に及びます。

現在、都城インター工業団地桜木地区の整備も進めていて、さらなる雇用の場を生み出すとともに、直接・間接的に、さまざまな波及効果が期待されます。



「地の利」を高め、地域医療拠点の役割を高度化

本市と三股町、都城市北諸県郡医師会が共同して整備を進めた、都城市郡医師会病院が平成27年４月、都城ＩＣ付近に新築移転しました。

移転に伴い、より高度な医療体制を整備したほか、宮崎大学医学部附属病院や県立宮崎病院への重篤患者の搬送時間が大幅に短縮。

さらには、地域医療の拠点として、市が運営する都城夜間急病センターおよび都城健康サービスセンターとの連携により、切れ目のない医療体制を構築しています。

子ども・子育て支援 人間力あふれる子どもたちの育成 「子どもたちの輝く未来」のための取り組み

核家族化や地域のつながりの希薄化などから、子育て環境は、育児や保育に関する経済的負担が増え、仕事との両立による時間的・精神的負担も大きくなっています。市では、このような現状を踏まえ、安心して子育てできる環境の整備とともに、子ども・子育て支援と人間力あふれる子どもたちの育成に取り組んでいます。

子ども・子育て支援の取り組み

◉子ども医療費助成を拡充

本市の宝である、子どもたちの健やかな成長を支援するため、平成29年度から、0歳～就学前児童の入院・通院費用に係る自己負担分を無料化。さらに、令和2年4月から、医療費助成の対象年齢を、中学校卒業まで引き上げ、小・中学生の入院・調剤薬局費用を無料化し、通院費用を1医療機関ごと1月当たり200円としたことで、子育てに係る医療費の負担を軽減。「子育て世代」を、強力に支援しています。

◉放課後児童クラブ拡充

放課後や夏休みなどの学校休業日に、保護者の就労などの理由で、子どもの世話ができない世帯に対し、令和元年度は、市直営12カ所と法人委託58カ所を合わせた全70カ所の放課後児童クラブを開設。子どもたちが安心して過ごせるよう、小学校や児童館、保育園を利用した環境を整備し、子どもの健全な育成の支援と併せて、保護者の子育てや、仕事と子育ての両立を支援しています。

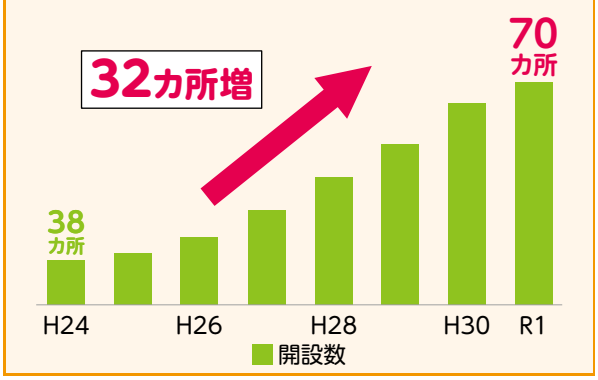
本年度は、市直営の5カ所を法人化し、開所時間の延長など保護者のニーズにも対応しています。

子ども医療費助成を拡充

	年齢	0歳 ～ 小学校	～ 中学校
令和2年3月まで	入院調剤	無料	助成なし（3割負担）
	通院	無料	助成なし（3割負担）
令和2年4月～	入院調剤	無料	無料
	通院	無料	200円/月 1医療機関ごと※

※同一の医療機関に医科と歯科がある場合は、それぞれで負担が必要

放課後児童クラブの開設数



「人間力あふれる子どもたち」の育成の取り組み

◉さまざまな取り組みを通して学びを支援

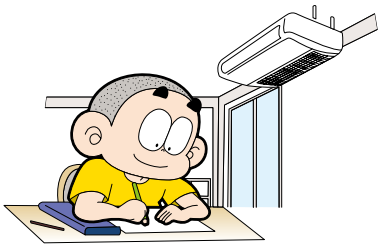
小学校3・4年生の算数科の授業に、習熟度別少人数指導を導入。学習のつまづきの早期発見と早期対処により、「算数が分かる！」という学びの喜びと、「算数ができる！」という自信につなげています。

また、中学校区の小・中学校が連携し、中学3年時の生徒の学力を見据えた、9年間の一貫教育体制を整備。このほか、学力向上の役割などを担う「コアティーチャー」を市内の中学校区で選任し、児童・生徒の学力向上を図っています。

さらに、ALT（外国語指導助手）や学校図書館サポーターを増員するなど、人間力あふれる子どもたちの育成に、強力に取り組んでいます。

◉全小・中学校に空調機（エアコン）を整備！

市では、市内全ての小・中学校54校（普通・特別支援教室、理科室や家庭科室などの特別教室）にエアコンを設置。近年の猛暑に対応した良好な学習環境を整備しました。



◉全小・中学校に洋式トイレを整備！

学校は、児童・生徒の学習や生活の場であることから、より良い環境づくりが重要です。

市では、国の補助事業を活用しながら、令和5年度までに市内の小・中学校のトイレ洋式化60パーセント以上を目指します。

◉小・中学校の情報通信技術（ICT化）を推進！

市では、平成30年度に、子どもたちの情報活用能力向上のため、ICT化推進モデル校（小学校4校・中学校4校）に、学習用タブレットを導入し、反復学習に有効な手段として主体的、意欲的な授業を支援しています。

さらに、本年度は、国の補助事業を活用し、全小・中学校に高速大容量の校内LANなどを整備。子どもたちのパソコンなどの情報機器の活用や分析能力などの向上のため、積極的にICT化を推進します。

◉中学生海外交流事業

次世代を担う中学生を、英語圏の学校に派遣し、学校の授業やホームステイを通して交流を深めたり、英語圏の中学生を受け入れたりすることで、語学力の向上と国際性豊かな人材を育成しています。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、本年度は開催中止

トピック topic

子育て世代活動支援センター「ぷれぴか（Mallmall（まるまる）内）」は、子育て支援センターと遊び場（プレイルーム・おひさまテラス）からなる複合施設です。子育て世帯に人気のスポットで、昨年度の利用者数は、約９万５千人。館内では、遊具や玩具、絵本を豊富にそろえています。また、保育士の資格を持つ職員が、育児の不安や悩みなどの相談に応じます。

利用者の声

瀧（たき）　美帆さん
心結（ここみ）ちゃん親子
（一万城町）

生後２カ月ごろに初めて利用。現在は、週２回ほど利用しています。遊べる玩具も増え、娘の成長を日々感じています。また、保育士が身近にいてくれるので、安心感があります。私たち親子にとって、「ぷれぴか」はなくてはならない場所です。